

(様式第1号)

☐ 会議録 ☒ 会議要旨

会議の名称	令和6年度第3回 芦屋市環境計画策定委員会
日 時	令和6年10月15日（火）14:00～16:00
場 所	芦屋市役所南館4階 大会議室
出席者	会 長 久 隆浩 副 会 長 秋本 久美子 委 員 飯嶋 香織 委 員 池内 清 委 員 大脇 巧己 委 員 岡村 仁美 委 員 永瀬 隆一 委 員 浜橋 多恵子 委 員 美濃 伸之 委 員 山口 容平
欠 席 者	委 員 三橋 弘宗 委 員 村上 順子
事 務 局	市民生活部長 大上 勉 環境課長 長良 晶子 課長補佐 小山 陽光 保全係長 岡本 祐子 課 員 芝本 裕真
会議の公開	☒ 公開
傍 聴 者 数	0人（公開又は一部公開の場合に記入すること。）

1 会議次第

（1）開会

- 1）市長挨拶
- 2）委員出席状況の報告

（2）議題

- 1）「第4次芦屋市環境計画」冊子（案）について
- 2）「芦屋市地球温暖化対策実行計画」（地方公共団体実行計画（区域施策編））について

（3）その他

- ・第4次芦屋市環境計画こども版冊子作成について

（4）閉会

2 提出資料

会議次第

- 【資料1】第4次芦屋市環境計画（本編）案
- 【資料2】第4次芦屋市環境計画（資料編）の新旧表
- 【資料3】芦屋市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の新旧表

3 会議経過

開 会

事務局より開会挨拶及び会議資料確認

会 議

(1) 市長挨拶

(2) 市長退席

(3) 委員出席状況の報告

事務局より、定数12名中10名の出席につき、会議成立と報告

(4) 会議の公開・非公開の決定

出席委員の全員一致により会議及び会議録の公開を決定（傍聴希望者はなし）

議事

1)「第4次芦屋市環境計画」冊子（案）について

(久会長)

1つ目の議事について、事務局をお願いします。

(事務局/岡本)

～資料1説明～

(久会長)

ありがとうございます。

何かご意見やご質問ありますか。

(永瀬委員)

これを作成するにあたり、部数あたりのコスト等は考えていますか。

(事務局/岡本)

冊子（案）としては、前回の計画のようにページ数を減らしてパンフレットのような形にしていますので、印刷製本費は抑えられるのかなと考えています。また、配布はしますが、ホームページといったデータ上での配布も検討はしていますので、現在のところは大きなコストがかかるとは考えておりません。

(永瀬委員)

コストが問題なければいいです。現在、総合計画を策定している中で環境計画だけこの形だと浮くかもしれません。体裁より中身が重要だと思いますので、外側はほどほどで良いと思っ

ています。

(久会長)

値段的にはあまり変わらないですか。

(事務局/岡本)

そのように考えております。

(久会長)

ほかいかがでしょうか。

(飯嶋委員)

計画はA3に拡大されるということですか。

(事務局/岡本)

はい。今回は会議資料としてA4サイズで印刷していますが、本来は現在の第3次環境計画の概要版と同じサイズを想定しています。

(飯嶋委員)

ネット等のPDFで見ると、切れてとても見づらいです。こういった見開きになるものは意外とページが縦のものが多いでしょうか。

(事務局/岡本)

データ上は、このように1枚、2枚、3枚と切れて表示していますが、印刷する際はリーフレットのようになります。

(久会長)

表紙と裏表紙が、中身の雰囲気と違っていますが、内容は、ほぼ今のイメージどおりでしょうか。つくりとしては、いわゆる観音開きですね。

(池内委員)

資料1の1ページ目の左側ですが、背景写真があつてとても見にくく感じます。参考資料1がすっきりして良いのではと思います。文字の大きさですが、小さくて読みにくいです。資料1と比較すると参考資料のほうが見やすく感じます。資料1は文字が小さくて見にくいです。ただ、2ページ、3ページ以降の中身だと、資料1は緑がたくさんあり、環境の雰囲気が非常

に出ていますし、字もはっきり見えますので、中身は資料1が良いと思います。どちらかに決めるのではなく、両者の良い部分を混ぜていくと良いと思います。

(久会長)

ほかいかがでしょうか。

(美濃委員)

資料1の1ページ目の二次元コードから資料編にアクセスできて、またその下に具体的な取組の例がありますが、冊子と資料編という本体があることを、読む市民が分かるように説明を入れたら良いと思います。その下の自然共生や脱炭素、資源循環も同様にできたら良いと思います。

(事務局/岡本)

資料1の3ページ目に、小さいですが「自然共生」「脱炭素」「資源循環」という関連ワードがあり、その下の※で「関連ワードに関する詳細の説明は資料編に記載しています」と書いています。資料編を確認されたい方は二次元コードからアクセスしていただきたいと思いますが、この二次元コードにもう少し説明を書くということによろしいでしょうか。

(美濃委員)

計画の全体像がどうなっていて、それぞれどこに行けば何が見れるかということを読む人に分かるほうが良いと思います。ぱっと見た人がそれを理解できるのか疑問に思いましたので、また検討していただきたいと思います。

(久会長)

ありがとうございます。ほかいかがでしょうか。

どちらかというと資料1が良いというご意見のほうが多いと思いますので、資料1をベースに、もう少しデザインやレイアウト等を微修正していくことによろしいでしょうか。

他、何かございますか。では資料2の資料編についても事務局から説明をお願いします。

(事務局/岡本)

～資料2について説明～

(久会長)

ありがとうございます。皆様いかがでしょうか。

ネイチャーポジティブについて、過去に美濃委員からご指摘があったと思いますがいかが

でしょうか。

(美濃委員)

以前と比べて随分と内容が充実していると思います。現在でも一般に普及しつつあると思いますが、ここ10年で恐らく一気に進む分野だと思っています。近隣自治体では、自然の再生に関する計画があると思いますので、そういったところも取り組んでいけると良いと思いました。

(久会長)

ありがとうございます。SDGsの1つの目標にもなっていますが、環境と経済は別々でなく、どのように両輪を回していくかという話題が、最近、世界的にも出てきていますので、芦屋は一步先に進もうということで、これを入れていただいたということだと思います。

ほかいかがでしょうか。

(大脇委員)

資料1についてですが、本編と資料編の関連付けを記載するほうが良いと思いますので、例えば、2ページ目の「上記の取組を市民～」の部分にも、詳細な説明や資料編への誘導みたいな言葉を入れると良いと思います。

もう一点は、資料2の「新：35ページ」ですが、市の補助事業に対して、担当課の連絡先やどこが窓口かという記載があれば、市民が活用してもらいやすくなる気がしました。

(久会長)

ありがとうございます。芦屋市に限らず、行政の担当課名はよく変わりますので、どこまでどう書き込むかということを考えながら、長期的に対応できるような工夫をお願いできればと思います。

(大脇委員)

もし担当課名が変わったとしても、名前があるだけで新しい担当課へつなぐこともできますので、そのほうが良いと思います。

2)「芦屋市地球温暖化対策実行計画」(地方公共団体実行計画(区域施策編))について)

(久会長)

それでは、2つ目の議事について事務局から説明をお願いします。

(事務局/岡本)

～資料３について説明～

(久会長)

ありがとうございます。

何かご質問、ご意見はありますか。

(山口委員)

１１ページの家庭部門をハイライトしている部分ですが、恐らく意図としては、家庭での対策が大事だということだと思いますが、そうすると運輸部門も含まれると思いますがいかがでしょうか。皆さんの家庭での対策が必要ということであれば、例えば文章でも良いので家庭部門と、あと運輸部門の中の家庭部分を切り分けることができると思います。皆さんの家庭の暮らしに関するものが何%と示すほうが、暮らしの話とつながるのではと思いました。

(久会長)

直接家庭の生活で排出しているものだけでなく、間接的にトラックを利用していることも意識をしなければならないと思いますので、またよろしくお願いします。

３）その他（第４次芦屋市環境計画こども版冊子作成について）

(久会長)

では、こども版冊子作成について事務局から説明をお願いします。

(事務局/岡本)

～参考資料（こども版冊子）について説明～

(久会長)

ありがとうございます。皆様いかがでしょうか。

(飯嶋委員)

何年生ぐらいを対象に考えていますか。

(事務局/岡本)

自然教育として、小学校３年生から４年生ぐらいを想定しています。小学校の中学年以上に分かりやすい内容にしたいと思っています。

(久会長)

今のところ、小学校3年、4年生ぐらいだと難しい気がします。

(飯嶋委員)

学校に配布するのであれば生徒の氏名を書く欄はどうでしょうか。

(事務局/岡本)

配布はタブレットなどのデータを考えており、他にも二次元コードを付けたいと考えています。

(秋山委員)

小学3、4年生はちょうど環境学習をしていますよね。授業の一環で芦屋川に住む生き物を探していますので、自分たちがそこに関わってやっていることを入れる。ごみやペットボトル拾いを通じて、親子でもそうですが、子どもたち自身が学校の中で取り組んでいることを盛り込んでいくと、より身近な冊子になって良いと思います。それらに関する写真はご提供できると思います。

(美濃委員)

参考にした資料はありますか。検索しても結構たくさんありますよね。「こども環境省」や東京都も脱炭素に関する子ども向けのサイトのように、取り組みを精査するだけでも参考になる資料がたくさんあります。脱炭素も少し表現が難しいと思います。

(事務局/岡本)

5ページの「脱炭素」も、どう表現すれば分かりやすくなるか考えているところです。

(美濃委員)

検索してたくさん出てきた中を精査するだけでも良い言葉が出てくると思います。どの学年を対象にするかで書き方も変わります。

(久会長)

私も先ほどの美濃委員と同じように、いろいろある中で良い部分を取っていくと良いと思います。あるいは副委員長もおっしゃっていただいたように、どう見せていくかとか、どのようなテーマにするか、様々なタイプがありますので、そこをまず決めていくことですね。

(山口委員)

温暖化や気候変動の中で、今回は温暖化について書いていますよね。基本的には、温暖化に

よって気候変動が生じ、それで悪影響が出るというのが基本的な構造だと思います。そこを資料では温暖化対策が必要としていますが、教材としては、その辺の構造も含めて説明したら良いと思います。なぜかという、海外だとクライメートクライシスといって、子どもたちが活動しています。それで、農業以外に人の生命や健康に被害を与え、さらに難民になるといったより強いメッセージが出て良いと思います。それが世界で普通になっていますので、もう少しそういう観点が入っても良いと思いました。

あと、5ページのIPCCの図では、産業革命前が0に基準化されていて、そこから1度上がったのが2020年だったと思いますが、そういう数値が出ているほうが分かりやすいと思います。

(大脇委員)

こども版として、一番は子どもに何を伝えて何をしてもらいたいかなと思います。これも環境計画を知ってほしいのか、その中の柱を知ってほしいのか、それとも、身近な自然に目を向けてほしいから作るのか。先ほどもありましたが、学年によってもすごく難しいので、そこをまずはっきりさせた方が良いと思います。普通の環境学習用の教材であれば幾らでもありますので、せつかくであれば、芦屋について子どもでも取り組めて考えられるものをつくるべきだと思います。

(久会長)

ありがとうございます。今の資料では、どのようなテーマで何をどう語っていくのかという部分が決まっていないということと、どちらかというと説明口調ですね。先ほど大脇委員がおっしゃったように、芦屋の環境について知ろうとか、あるいは気づいて調べて行動してみようという方法もありますので、何をどういう形で子ども達に訴えて、いわゆる環境行動につなげていくかという戦略をもう少し練っていくと、分かりやすくなると思います。

地球温暖化って非常に難しく、芦屋から地球温暖化に持っていくというのは、かなり距離もハードルもありますので、もっと身近に、例えば、飲み水はどこの水か、あるいは下水はどこへ行って、どこの処理場できれいにしているか、そういう身近な生活をスタートに、少しずつ距離が遠いような問題へ持っていく方法もあると思います。

今は分野ごとにまとめようとしていますが、分野にこだわらないまとめ方もあると思います。

(池内委員)

子ども向けだと、小さい子どもでも分かるというニュアンスにも関わらず、初めから「自然共生」、「脱炭素」、「資源循環」と難しい言葉がずらっと並んでしまう。これだと説明しても難しいと思います。もちろんこの三本柱は大事ですが、それらはどう関連して自然を守っていく

のかという全体のつながりをもう少し説明する文章があれば良いと思います。「それがあって初めて、これができる、あなたの身近では～」というように広げていくほうが分かりやすいと思います。

(浜橋委員)

対話形式の中で、先生が全てを知っていて、答えを子どもに教えるようなつくりになっていますので、例えば、答えは見つからないかもしれませんが、子ども同士の会話にして一緒に考えていくようなつくりの方が子どもには分かりやすいと思いました。

(久会長)

ありがとうございます。対話形式でも、漫才のようにオチをつける方法もありますし、先ほど浜橋委員がおっしゃったように、子ども同士の会話の中から気づきを促す方法もありますので、芦屋は何が一番良いのか考えていきたいと思います。

(大脇委員)

タブレット用にデータでの配布がメインだと思いますが、子どもと親が一緒に見るような形も考えると、それこそ子どもを通じて親へ啓発する形もあると思います。

あと、クイズ形式にして、芦屋と他の地域との違いを入れて、解説で教えるような方法もあると思います。

(飯嶋委員)

芦屋は、家庭から排出する割合が多いので、芦屋の特性を生かした書き方をすると、これから取り組むことでなく、今、子ども達が自宅で取組んでいることをお互いに意見交換すると良いと思います。このままだと子どもの意見を反映する機会がないと思いましたので。

(久会長)

ありがとうございます。例えば、「あなたの家は何点ですか」といったチェックリストがあっても良いと思います。

他いかがでしょうか。先ほど山口委員がおっしゃったように、疑問に思わせていくような展開もあると思います。例えば、地球温暖化は、一見すると温かくなって良いと感じるけどなぜだめなのか、という展開でしょうか。

あと一番良いのは、文章が少なくて図表や写真が非常に多いということですね。解説文はいわゆるキャプションのような形で、短い文章で的確に表したつくり方になっている、日本ユニセフ協会のSDGsクラブが参考になると思います。

(山口委員)

今のコメントと関連しますが、自分たちで作らず、既に作られている子ども向けのものを参考にしたら良いと思います。

(久会長)

ありがとうございます。教材として使うのであれば、データだけを教えて自分たちでグラフを作らせるような作り方もありだと思います。

地球温暖化の仕組みの図ですが、これ分かりますか。二酸化炭素の温暖化ガスがあるのに、なぜ熱が入ってきても熱が出ていかないかといった根本的なメカニズムが全然説明できてないと思います。これは波長が違うからですよね。短い波長は通過できますが、長い波長は弾かれるという仕組みが分かってないとこの図は恐らく理解できないと思います。だから、そこと合わせて初めて理解できると思います。

ほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(池内委員)

地球温暖化について、まず、「もしこういうことをしなければどんな世界が来るのか」ということを載せて、「そうならないためには何が必要なのか」ということを考えてみるというのもひとつだと思います。「何もしなければこんな世界になる、だから改善して様々な方法を考える」ということで子ども達が本当に未来の世界を理解できたら良いと思います。

(久会長)

ありがとうございます。ほかいかがでしょうか。

これは1つのパターンしかだめでしょうか。小学校の低学年や高学年、中学生ではかなり異なってきます。低学年用と高学年用と2種類を作った方が分かりやすいと思います。

(事務局/長良)

今回、皆様からの貴重なご意見をいただいて、環境計画の全てを網羅する必要はないということがよく分かりました。子ども達が、今理解できる範囲の少し先のことを考えてもらうきっかけになるものが一番望ましいと思っています。また、計画を作った後の実効性を高めていくためにどんなことを継続していくか、その指針やきっかけが環境計画だと思いますので、今後とも検討させていただきたいと思います。

(久会長)

ありがとうございます。様々なご意見をいただきましたので、良いものを作っていきたいと思います。

(山口委員)

改めて資料1を見ましたが、全体的なコメントとして、「将来の目指す姿」が若干まだコンサバで、もう少し将来必要な変化みたいなものを踏み込んだ内容にするというのも1つの姿かなと思いました。少し具体的に言うと、脱炭素は分かりますが、自然共生が「・・・保全に係る取組ができるまち」と書いていますけど、世界の流れでいくと、やはりネイチャーポジティブや、もっとドラスティックな自然生態系を回復させるのが2030年目標だとすると、そこに芦屋市がどう貢献するかだと思います。守るだけでなく、そこからさらに回復というところまでを考えていくと、若干まだコンサバなスタンスが見えると思いますし、よく知っている人がこれを見るとそう受け取られる可能性もあるなと感じました。今回はこれで良いと思いますが、これからどうしていくのかというのは、どこかで議論をしたら良いと思います。

もう一つ、特に自然共生の中で何をしていくのかがあまり見えてこないです。ネイチャーポジティブという言葉は書いてありますが、市民が具体的に何をしたらということがほとんど書いてないと思いましたので、そこが市民までまだ落ちていないのかなと感じました。

(久会長)

ありがとうございます。先ほど山口委員からコンサバティブというお話がありましたが、少し言い方を変えると、自然共生の書きぶりがまだまだ人間中心主義になっているということです。やはりここは人間が自然に合わせていくにはどうしたらいいかという観点だと思いますので、また修正できるのであれば修正をお願いしたいと思います。

ちなみに国連では脱酸素と生物多様性が柱で、生物多様性に関しては、世界的にはもっと大きな柱になっていますが、芦屋だけでなく日本は弱い感じがします。そういうことを芦屋から「本来のネイチャーポジティブをどうやって発信できるか」というようなことを考えてください」という呼びかけでもあるのかなと思います。

(永瀬委員)

最初の説明で、こういった冊子をつくるとおっしゃっていましたが、前回の環境計画のような分厚いものもつくりませんか。

(事務局/長良)

1冊にするのではなく、本編と参考資料として配布している資料編の2冊でセットになります。本編は手に取りやすいようコンパクトにし、資料編は二次元コードに飛ぶようにして見ていただくような形を考えています。

(永瀬委員)

以前の環境計画に環境配慮事項という項目があり、市民・事業者・行政とそれぞれが項目ごとにできているかというものがありましたが、新しい計画にはそれがありますか。あるほうが今後も良いと思います。我々事業者はこれを見たことなく、確認もできなかったもので、改めて出していると確認に使えます。もちろん本編には要らないと思います。ただ、今のものと古くなっていると思いますので、そのあたりはアップデートする必要があると思いますが。

先ほど市長も言っていたように、つくってから常に確認していくという意味では、文章がずらっと並んでいるだけでなく、何を確認するかという意味で前回のこれは非常に助かるなと思っています。

(事務局/長良)

本編にも、「学びと共創」のページに「自然共生」、「脱炭素」、「資源循環」に分けて、下に「市民」、「事業者・団体」、「行政」とそれぞれの役割を書いています。一覧表よりは少し簡素にはなりますが、取り組んでいただきたいことをまとめております。

(久会長)

資料編39ページ以降に市民、事業者、行政がそれぞれの分野で何をしたらいいかということをもとめて書いています。

(久会長)

ありがとうございます。ほかいかがでしょう、よろしいでしょうか。

それでは、事務局から連絡事項等がございましたらよろしくお願いいたします。

(事務局/岡本)

～今後の策定スケジュールについて説明～

閉会

(久会長)

それでは、これをもちまして第3回芦屋市環境計画策定委員会を閉会します。

ありがとうございました。

以 上